

くようです。

(お祭りのとき、ぼくたちのおはやしで町中が元気になるぞ。)  
たいこの音がますます大きくひびきわたっています。



## 18 トムトムが見たものは

きようは、南の島の<sup>しま</sup>トムトムのおたん生日です。みんな楽しそ  
うに、おいわいのお昼のごちそうを食べています。

「こんなおいしい貝を食べたのは、はじめてだ。もっと食べたい  
なあ。」

「もう、これだけしかないのよ。これは、ジムおじさんからのプ  
レゼントなの。海のそこ<sup>ぶか</sup>深くに住<sup>す</sup>む、めったにとれないめずら  
しい貝なのよ。」

「それなら、よけい食べたいなあ。たのんでよ。」

「いけません。そんなむりなことを。」

「ジムおじさんならきつと聞いてくれるよ。ねえ、ねえ、すぐにたのんでよ。」

「……………」

トムトムがあまりにも強く言うので、お母<sup>かあ</sup>さんはだまって部屋<sup>へや</sup>を出て行きました。

トムトムは、いつお母さんがもどってくるかと、気にしながら食事<sup>しょくじ</sup>をしていました。しかし、なかなかもどって来ません。

「いったい、何をしているんだ。おそいなあ、お母さんは。」

トムトムは、「ごちそうさま。」も言わないで、自分の部屋へもどって行きました。

夕方近くになって、トムトムはヤシの木に登<sup>のぼ</sup>り、つつのようなもので、あたりをながめていました。それは、おたん生日のおいわいに、となりの島のおばさんからいただいたばかりの遠めがねだったのです。

「これはすごい。遠くの島が、こんなに近くに見える。」

「わあ、遠くの船も、目の前を走っているようだ。」

トムトムはうれしくなって、つつをのばしたり、ちぢめたりしながら、あちらこちらをながめていました。

「おやつ、あれは。」

トムトムは、動か<sup>うご</sup>かしていた手をとめ、何かをじっと見つめています。

「小ぶねから、海にとびこんでいる人がいる。」

「いったい、何をしているんだらう。」

ふしぎに思ったトムトムは、遠めがねのつつをまわして、もつと近くに見えるようにしました。

「あつ、ジムおじさんだ。」

なんと、そこに見えたのは、トムトムの大すきなジムおじさんの顔でした。しかし、いつもとちがって、とても苦くるいそうです。ハアハアとはく息いきの音が、つたわってくるようです。



「もしかしたら。」

トムトムは、真まっ赤かな夕日をうけて、何なん度も何なん度も海にとびこむジムおじさんの様子を、じつと見つづけました。そのうちに、トムトムの目になみだがかうかんできました。

トムトムは、何かを思いついたようにすると木をおりると、家にとびこんで行きました。そして、お母さんの顔を見るなり、「お母さん、お昼のときはごめんなさい。あんなにおいしい貝を食べることができて、とてもうれしかったよ。それなのに、ぼく……。ジムおじさんにあやまってくるよ。」

と言って、また、急いそいで外へとび出して行きました。

# 18 トムトムが見たものは

1-(2) よく考えて行動し、過ちは素直に改める。(思慮・反省)

## ①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

好ましい行動をとるためには、事前に行動の結果を推察する思慮深さがなくてはならない。また、行動中および行動後においては、その行為について常に反省し、修正を加え、好ましい方向に変更する態度が肝要である。

ここでは、思慮反省についての重要性を理解させ、よく考えて行動する態度を養い、そして同時に、過ちを犯していたと気付けば素直に改められる態度を養いたい。

〈子どもの実態について〉

三年生の子どもたちは、主体的に善悪を判断する力が身に付いてきている。しかし、興味や関心、思い込みなどにより一つのことに熱中すると、周りのことまで考えられないで失敗をすることもある。それをとがめられたときなど、自己を客観視したり自己を振り返ったりすることに抵抗をもつ子どもも見られるが、家族・友達・教師の考え方を聞くことによって、自分を見つめようとする気持ちもだんだんと育ってく

る時期でもある。

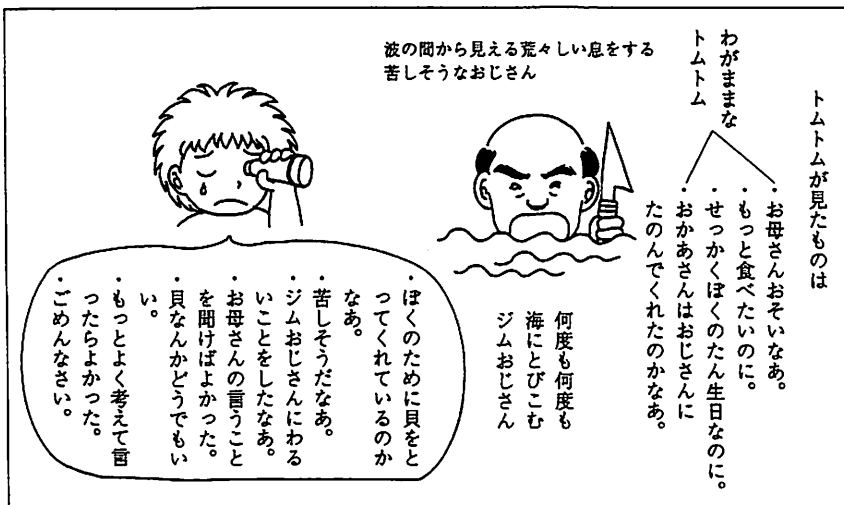
〈資料について〉

主人公は、誕生日のお祝いにもらった貝をもっと食べたいとわがままをいう。しかし、自分のために苦しい思いをして貝を探す叔父さんの姿を見て、自己の言動の過ちに気付き、反省するという話である。

主人公の設定は、南の島の少年となっているが、この期の子どもたちにとって日常的な出来事でもあり、身近な人物として受け止めさせることができる。母の言葉に耳をかさず自分の要求ばかりを通そうとする少年を、子どもたちは批判的にとらえることと思われる。その批判を通して子ども自身の中にある少年との共通性に気付かせ、さらに、遠眼鏡を通して叔父を見続けるときの、少年の気持ちの変化をとらえさせながら、何事もよく考えて行動し、過ちは素直に改めようとする態度を養いたい。

## ②ねらい

よく考えて行動し、過ちは素直に改めようとする態度を養う。



## ③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
(1) よく考えないでしていたことで、後で「しまった」とが「いけなかった」と気付いたとき、どうしたか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。</li> </ul>
(2) 資料「トムトムが見たものは」を読んで、話し合う。 ① 「ごちそうさま。」も言わないで部屋へ戻るトムトムは、何を考えていたのでしょうか。 ・ お母さん、おそいなあ。 ・ もっと食べたいのに。 ・ せっかくほくの誕生日なのに。 ・ お母さんはおじさんに頼んでくれたのかなあ。 ② ジムおじさんの様子をじっと見続けていたトムトムは、どのようなことを考えていたのでしょうか。 ・ お母さんの言うことを聞いて、貝はあきらめればよかった。 ・ ジムおじさんに、こんな苦しい思いをさせてしまって悪かった。 ・ 思ったことをすぐ言ってしまったけれど、もっとよく考えて言ったらよかった。 ・ 二人に謝ろう。 ③ トムトムは、おじさんにどんなことを言ったのでしょうか。 ・ おじさんが苦労して貝をとっていたのは知らなかった。 ・ 自分のことしか考えていなかったのではずかしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の一時的な欲望を満たしたいがために、わがままを通そうとする自分勝手な行動であることをとらえることができるようにする。</li> <li>・ 遠眼鏡を通して叔父を見続けるときのトムトムの気持ちの変化をとらえることができるようにする。</li> <li>・ トムトムの考えを吹き出しカードに書き込ませることによって、目になみだがかんできたトムトムに共感できるようにする。</li> <li>・ 再現劇をすることによって、素直に反省することの大切さに気付くようにする。</li> </ul>
(3) 自分たちの生活について振り返る。 ○ 誤りに気付いて素直に謝ったためによかったなあと思ったことはありませんか。 ・ 妹とふざけていて、花びんをわってしまった。お母さんに素直に謝ると、やさしく許してくれたので、すっとした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よく考えて行動すること、また、素直に過ちを改めることの大切さについて考え、実践していこうとする意欲が高められるようにする。</li> </ul>
(4) 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説話を通して価値のまとめをする。</li> </ul>